

第6回世界のウチナーンチュ大会記念  
虹色のかけはし  
内間安理のARTと  
浦添の移民100年展  
6月16日(木)～26日(日)

浦添市の移民は1904年にハワイへ渡った方々が最初でした。様々な事情から新天地を求めて多くの人びとが海外へ移住しました。内間安理(1921～2000年)はアメリカのロサンゼルス移民の2世です。

内間は戦前、外国人排斥の気運が高まる中、1940年に早稲田大学に留学し、日本の浮世絵をはじめ恩地孝四郎や平塚運一、棟方志功らの創作木版画に魅了されて美術家に転向しました。1959年に帰国してニューヨーク、マンハッタンを拠点とした活動を展開します。帰国前に琉球美術協会の招きで沖縄でも展覧会を開催し、両親の郷里の自然や文化に触れ、美術家たちとも交流がありました。

作品は当時先端の美術表現の影響を受けながらも、木版画の手法で独自の表現を追及します。本展覧会では、沖縄県立博物館・美術館所蔵の内間安理作品98点から、1960年以降アメリカ帰国後の作品26点と、同じくニューヨークを拠点とする沖縄出身の写真家、比嘉良治氏が捉えた内間の写真10点を紹介しました。

特に、1977年以後から取り組んだ「森の屏風」シリーズ9点は、奥行きある空間と

豊かな色彩が調和し、風がそよぐような錯覚を覚える内間の到達した世界が堪能できました。

本展覧会では同時に、浦添市立図書館による「浦添の移民100年」を紹介する展示を行いました。北米と南米を中心とした移民の歴史と現在の交流までを取り上げ、当時の写真や証言のほかに、日本帝国海外旅券や往時のスーツケース、開拓移民をブラジルなどへ送った南米拓殖会社の株券など23点余りを展示しました。会期中には内間安理はじめ、紹介した方々の親族らの観覧もありました。



永津 禎三氏によるギャラリートーク



浦添の移民100年展



森の屏風シリーズ



新収蔵品の紹介

黒漆牡丹唐草七宝繫沈金食籠

16世紀から17世紀に製作されたと考えられる琉球漆器の優品です。いきいきとした牡丹唐草文様と七宝繫が全体を飾っています。

器物は一見三段に見えますが、蓋に高さがあり、甲が少し丸みを帯びた深い蓋の円形二段の食籠です。中は全面に朱漆が施されています。全体の外側は黒漆で、甲と側面には沈金の技法を用いて牡丹唐草と七宝繫文が全面に施されています。

この形の食籠は、琉球王府の儀礼道具に見られる伝統的な形式です。特に朱漆に沈金や箔絵を施した食籠は、「御花米」「御籠飯」といい、上段に米を盛って使用したようです。近世後期には、正月に炭や九年母(ミカ)を飾る正月飾りとしても使用されています。請け台となる足付き盆を併い、円形部分のカーブは曲げ物や平紐を巻き上げて作る特徴があります。

この品は、東京国立文化財研究所や鶴見大学文化財科の教授でいらした修復家の中里壽克先生が、昭和40年代に東京上野のデパートで行われた骨董市で研究資料として購入したものを、昨年ご寄贈頂きました。時代を超え、多く人の手を渡って、現在の沖縄へ戻ってきた作品です。



シンポジウム

「琉球の漆文化と科学2016」

浦添市美術館と明治大学(本多研究室)の共催で、貝で漆器を飾る「螺鈿・らでん」技法をテーマに開催します。

報告は「螺鈿に利用される貝類」(黒住耐二 千葉県立中央博物館)、「アジアの螺鈿・貝文化」(小林公治 東京文化財研究所)、「琉球螺鈿の復元」(宮城清 伝統工芸士)、「首里城より発掘された貝片」(瀬戸哲也 県埋蔵文化センター)、「琉球螺鈿を科学する」(神谷嘉美 東京都立産業技術研究支援センター)などです。資料観察会では、①「首里城銭蔵より発掘された貝片」②「マイクrostコープによる貝の観察」を予定しています。

日時 11月19日(土) 13時～17時半

場所 浦添市美術館講堂 参加費無料。

特別展「きらめきで飾る 螺鈿の美をあつめて」

漆黒に映える宝石のようなきらめき。螺鈿は漆器の表面を飾る技法で、ヤコウガイやアワビの薄片を用います。螺鈿の輝きは、古くから日本や中国、朝鮮半島、東南アジアの人々を魅了してきました。本展は、九州国立博物館と共同企画で、アジア各地の螺鈿の美をご紹介します。

九州国立博物館 2016年 10月16日(火)～12月23日(金) 浦添市美術館 2017年 1月14日(土)～2月19日(日)

夏休み子ども体験教室

毎年、大人気の子どもの体験教室。今年は4教室を実施します。

- ① 親子で染めよう 藍染教室 (8月6日) 親子参加型の教室です。トートバックと日本てぬぐいを染めます。
- ② マーキングで彩る星空 (8月11日) 水面に絵具を垂らし、模様を写し取ります。
- ③ 世界のアートを知らう (8月13日) JICA沖縄国際センターの研修員を講師に迎え、南太平洋のアートを紹介していただきます。
- ④ ありぐりんアート (8月18日) 美術館周辺を散策しフロッタージュを制作します。 ※募集は締め切りました。

実習教室 (生徒募集)

- 沈金・箔絵教室 内容 銘々皿2枚に模様をつけます。 日時 9月3・10・17日 10時～正午 (毎週土曜日 全3回)
  - 定員 10名
  - 費用 3000円程度
  - 講師 赤嶺 貴子氏(漆芸家)
  - 申込 8月5日～21日電話にて
  - 篆刻教室 10月開講
  - きゆう漆教室 11月～12月 開講
- 募集の詳細については、広報「うらそえ」、美術館HPに掲載します。

学芸員より

ちよつと「ト」

浦添市美術館に入館し、受付左手側の螺旋階段を昇った先にある円形状の2階フロアが、当館が所蔵する美術関連書籍を公開している図書室です。当館では県内外を問わず様々なジャンルの展覧会の図録や研究報告をご寄贈頂いております。現在所蔵している書籍は、書庫の書籍を含めると図書室で公開している冊数を優に上回っています。そこから新刊や、年代をこえて愛される作品集、現在開催中の展覧会に関する書籍などを選んで陳列します。中でも私が注目しているのは、『美術手帖』や『芸術新潮』などの月刊誌を集めている雑誌コーナー。全国の美術館でどのような展覧会が開かれていのか、近年の流行なども窺い知ることが出来ます。

最近では書庫の整理も兼ねてかなりの書籍を入れ替え、リニューアルを図りました。図書室の各机には学芸員お気に入りの一冊を置いて来館の皆様へご紹介しておりますので、美術館にお越しの際は是非図書室へも足を運び下さい。(久高)



美術館スケジュール 2016年8月～11月 ※タイトルや日程は変更になる場合があります		
■常設展 展覧会名称	会期	主催
平成28年度第Ⅰ期常設展 「漆器トラベル！」	4/29(金)～9/4(日)	浦添市美術館
平成28年度第Ⅱ期常設展 「琉球漆芸と浦添の宝もの」	9/9(金)～1/10(火)	浦添市美術館
■企画展示室 展覧会名称	会期	主催
宇宙散歩 by MEGASTAR	7/23(土)～8/28(日)	琉球新報社
ダウン症の女流書家 金澤翔子の世界展-共に生きる-	9/3(土)～10/2(日)	琉球新報社
なつかしき昭和の想い出展～谷内六郎の絵とオキナワの子どもたちの写真～	10/8(土)～11/13(日)	沖縄テレビ
第29回ライオンズクラブ国際平和ポスターコンテスト展	10/8(土)～10/9(日)	てだこライオンズクラブ
神山晴柳書作展	11/18(金)～11/20(日)	神山律子
浦添市文化協会 第35回文化祭	11/24(木)～11/27(日)	浦添市文化協会
開館時間	午前9時30分～午後5時 ※金曜日は午後7時まで(入館は閉館の30分前まで)	休館日 月曜日(祝日の場合は開館) ※12/28～1/4 年末年始休館



2017年2月5日(日) 13時～  
場所 てだこホール(小ホール) 無料  
企画展「螺鈿展」にあわせて、タイやベトナム、韓国、日本国内の螺鈿研究者によるシンポジウム。

News!! 沖縄県博物館協会 事務局となりました

沖縄県博物館協会をご存知ですか? 1977年に設立され、沖縄県内と、かつて琉球文化圏に属していた鹿児島奄美地域の公私立博物館個人会員約80組で構成する団体です。沖縄の特色ある自然や歴史、文化を県民はじめ多くの皆さんに知っていただき、地域文化に寄与することを目的に活動しています。ホームページには各館の紹介や展覧会も掲載しています。

当館は平成28と29年度、事務局を担当して皆様と共に活動します。

沖縄県博物館協会 クリック